

## 大分県への要請行動！！

### 「安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める要請書」提出！！

### 大分県医労連から

### 美馬委員長はじめ11人の執行部メンバーが要請



### 県から福祉保健部

### 医療政策課の課長補佐をはじめとした実務担当者が出席

看護職員の勤務環境の改善に向けて、「五局長通知」をベースに看護協会から出されている「夜勤・交替制勤務に関するガイドライン」等を参考にし『看護師の確保は定着から』という考え方を中心に学習会を実施している。学生の県内就業のためにも奨学資金も有効に活用してもらいたい。

看護師に関しては今年度、新卒者の 68.4%が県内就職しており、昨年に比べ 0.3%伸びている。また新卒者の離職率としては看護師は 5.1%となっている。介護職者は全体的に離職率は 15.1%とやはり高値を示している。介護職の就業困難は労働も過酷であること低賃金で推移している事などが大きく作用しているのではないかなど現場からも声が上がりました。また、勤務体制としては、二交替制が 6 割近く存在しているが、勤務時間に関しては把握できてないという返答でした。実態がつかめていない調査からは何も得ることがないことを指摘した上で、今後とも県内の就労実態調査を決め細かく取り組み行政からの指導・推進に役立てて欲しいと要望しました。

就職支援に対しては「カムバックナース」として現場での実習などを取り入れている事などが説明されました。有効に活用されるように重ねて要望しました。

子ども子育て支援課からは、院内保育所事業に関して、補助金の話等がされましたが実質的なものではなく、27 年度から子ども子育て支援制度が改正されることに関して、今後市町村からの援助なども出てくるなどの説明がされました。

医師の確保のためには、地域枠を決めて地域の高校生が進学しやすい様にする事や、医師の後期研修制度の充実、若手 Dr.の専任指導を地域大学に依頼するなど魅力的な職場作りに努めていくなどの取り組みをしていることが報告されました。今後も行政が主体となって医師確保の取り組みを進めてもらうよう、また特に県北に関しての方向性などを示して戴きたい旨要望を出しました。

医療の現場は 70%以上が女性で占められていると言っても過言ではない程多くの女性労働者が就業しています。働きやすく、働き続けられる職場環境作りには県の指導が必要不可欠であることなど、出席者から過酷な職場実態が出されました。より良い環境整備のためにきめ細かい看護実態調査を実施して欲しい。そのために医労連の資料等も活用して欲しい旨伝え、今後も県からの情報発信と解りやすい提供の仕方、きめ細かい指導などをお願いして 2 時間の交渉時間を終了しました。